

心の散歩道

『祈りの治療効果』

医学 医療分野において革命的なことが起ころうとしている。それは、西洋医学だけに基づく医療が、今やアメリカでは50%を割ろうとしている。この事実に驚いた米国政府は、国立衛生研究所（NIH）に命じて、大がかりな調査を行った。その結果、東洋医学などの伝統医学をはじめ、薬草（ハーブ）漢方薬、鍼灸、瞑想、音楽、信仰などの医療に

及ぼす効果についての研究が、非常に活発化していることがわかった。

二〇〇一年には、米国政府は八千五百万ドルの予算をつけ、三年間に二億ドルに引き上げられた。西洋医学は目覚ましい成果を上げたが、それでも病人は減らず医療費は毎年アップしており、西洋医学の限界が明らかになったからである。特に注目されるのは、新しい分野で、祈りの治療効果が明らかになりだしたことである。ハーバード大学、コロンビア大学などの権威ある大学が、競ってこの研究に乗り出している。研究の効果は大きく、祈りの効果を肯定する発表が相次いだ。既に、その研究例は千二百を超えている。そして「精神神経免疫学」という新しい分野も開かれて。人類が古来続けてきた、「祈り」が最先端の研究分野になりつつある。

全く有効成分が入っていないものでも「これは素晴らし新薬でよく効く」と言っで与えると効果が有ることは、古くからプラセボ（偽薬）効果として知られている。これは、期待感、自己暗示などが治療に有効であることを示している。まさに「病は気から」である。プラセボ効果は、実験者の三人に一人位には有効である。これまで行われてきた臨床試験や実験結果から、プラセボは脳内でエンドルフィンの分泌を促して痛みを抑え、免疫力を活発化させ、気分をリラックスさせる等、科学的に実証されつつある。心の持ち方、使い方が身体の状態に、人類は古くから経験上知っていた。それが今、科学的に実証されようとしている。しかし、現在、医者も含め多くの人は、祈りが治療上有効だと信じていない。祈りが治療に有効であると認めている医学者でも、その多くは、このプラセボ効果にすぎないとも考えている。しかし最近、米国の病院で、大変興味ある実験が行われた。心臓病患者三百九十三人による実験で、他人に祈られた患者はそうでない患者より人工呼吸器、抗生物質、透析の使用率が少ない事実がわかった。しかも、東海岸側からの祈りも、西海岸にある病院に近いグループからの祈りも同様に効果があつた。そして、これらの患者は祈られていることすら知らなかった。距離をこえて、他の人のために祈ることも有効だとすると、この祈りは単なるプラセボ効果では説明できない。

人類は、数千年にわたり、すべての民族で、人々は真摯に祈りをささげてきた。それは、目には見えないが、確かに存在する大自然の不思議な働き（サムシンググレート）に対するものであつた。祈りは、まさに人類の文化の遺伝子ともいえる。

